

第4回 都市の汚染質拡散の乱流モデリングWG 議事録（案）

1. 日時：平成22年5月13日 木曜日 16:00～17:00

2. 場所：日本建築学会 会議室

3. 出席者：

飯塚 悟	（名古屋大学）	小野佳之	（大林組）
白澤多一	（幹事：大妻女子大学）	土屋直也	（竹中工務店）
富永禎秀	（主査：新潟工科大学）	野津 剛	（清水建設）
持田 灯	（東北大学）	義江龍一郎	（東京工芸大学）
大風 翼	（東北大学）	香月壮亮	（東京大学生研）

4. 配布資料

資料 4-0：第4回 都市の汚染質拡散の乱流モデリングWG 議事次第

資料 4-1：第3回 都市の汚染質拡散の乱流モデリングWG 議事録案

資料 4-2：MUST 計算の実施要領について(改訂版)(白澤)

資料 4-3：COST732 MODEL EVALUATION CASE STUDIES:

APPROACH AND RESULTS DRAFT Appendix A –Description of model runs

資料 4-4：COST732 MODEL EVALUATION CASE STUDIES:

APPROACH AND RESULTS DRAFT Appendix B –Graphical presentation of model results

資料 4-5：MUST ベンチマークテスト途中経過報告（義江）

資料 4-6：MUST ベンチマークテスト経過報告（飯塚）

5. 審議事項

1) 前回の審議事項の確認（資料 4-1）

- ・白澤委員より前回 WG の審議事項の確認がなされた。
- ・非等温の単体建物モデル後方からの汚染質排出のベンチマークテストについては東北大が実施予定であることが報告された。

2) MUST 計算の実施要領について(改訂版)(白澤)（資料 4-2）

- ・MUST case を対象としたベンチマーク計算実施要領案の改訂版について、白澤幹事より説明があった。
- ・本 WG においても、既にガイドラインが整備されている状況も踏まえ、条件は厳密に統一せず、各機関が通常の実務レベルの条件設定で計算を行うことを基本的な考えとすることが確認された。
- ・前回の実施要領からの主な変更点は、
 - ① ガスの排出条件は、排出口からの風量が合うように設定すること
 - ② 乱流シュミット数は 0.9 を用いること
- ・義江委員より Schatzmann 教授へ MUST case のベンチマークテストを実施する旨を

連絡し、了解を得たことが報告され、この本ベンチマークテストのデータを用い、論文を書く際の注意事項が報告された。

- ・本ベンチマークテスト用 CAD データが読めない場合等があったため、本ベンチマークテスト参加機関には再度 CAD データを送ることとなった。

4) MUST ベンチマークテスト計算実施例 (資料 3-4、3-5)

- ・義江委員より Fluent を用いた流れ場の解析結果について報告された。
- ・飯塚委員より STREAM ver.8 を用いた解析の途中経過が報告された。
- ・COST で行われたベンチマークの結果を分析することによって、乱流モデルや境界条件の取扱いによる結果の傾向が何か見いだせるのではないか、それに基づいて計算条件を決めてもよいのでは、との意見があった。

次回：7月26日(月) 17:00～18:00

(都市の換気・通風WGが7月26日(月) 15:00～17:00)

(文責：白澤、富永)